



動

くこどもの

城

平成 26 年度事業案内
(巡回要領)

 **こどもの城**

(公益財団法人 児童育成協会)

KIKU.

〒150 - 0001 東京都渋谷区神宮前5 - 53 - 1

こどもの城 センター事業運営部内「動くこどもの城」事務局

TEL 03 - 3797 - 5668 / FAX 03 - 3797 - 5676

E-mail ugoku@kodomonono-shiro.jp

〔こどもの城〕と〈動くこどもの城〉事業

〔こどもの城〕

〔こどもの城〕は、1979年の『国際児童年』を記念して厚生省（現：厚生労働省）が企画・建設した、「児童の心身の健全育成」をはかる総合児童センターです。1985年に開館しました。厚生労働省の委託を受けて、公益財団法人児童育成協会が運営にあたっています。

次代を担う子どもたちに、さまざまな〈あそび〉をとおして心身ともに健全に育ててほしいと願って活動しています。子どもにとって〈あそび〉は、単なる“娯楽”とは違い、さまざまなことがらを体験し、身につけていく大切な場です。〈あそび〉が、子どもの“生活”そのものなのです。

〈あそび〉のなかには、子どもたちが人間として育っていくうえで身につけてほしいこと（社会性、自発性、集中力、感性、表現力など、あらゆる能力にかかわること）が、たくさんあります。子どもたちは、〈あそび〉のなかで自然にこれらの力を身につけて、育っていくのです。

〔こどもの城〕では、さまざまな分野のスタッフが、子どもの“育ち”を支える、先駆的なプログラムの開発を行い、

実践しています。「子ども活動エリア」と総称している遊び場を中心に、体育・プレイ・造形・音楽・映像科学の5つの部門と保育、研修課（ボランティア養成部門を含む）、劇場などの関連部門が協力して、毎日、〈あそび〉のプログラムを提供しています。



〈動くこどもの城〉とは —

〔こどもの城〕では開館以来、各部門の専門性を生かした〈あそび〉のプログラムの開発・実践に力をそそいできました。これらのプログラムは、多くの来館児・者に提供され、実践をとおしてよりよいプログラムへと練り上げてきました。その間、実践しているからこそ得られる〈あそび〉のプログラムや子育てを応援するプログラムにかかわる、さまざまなノウハウを得ることもできました。

これらの知見やノウハウを、全国の児童館の仲間と共有し、より一層の児童館活動の活性化に役立てることができれば、と始められたのが〈動くこどもの城〉事業です。〈あそび〉のプログラムの企画・立案から実施にいたるまでのノウハウを各地の児童館などに紹介し、それをもとに情報を交換しあいます。

1) 〈動くこどもの城〉は、国庫補助事業「児童館巡回等支援活動事業」の通称です。

〈動くこどもの城〉のプログラム

〈動くこどもの城〉のプログラムは、〈遊びのプログラム〉を参加者を集めて実際に行う「子どもとその家族を対象とした活動」、「児童館・放課後児童クラブなどの職員・ボランティアを対象とした研修会」、そして「全国児童館おりが

み作品巡回展」の3つに分けられます。

〈遊びのプログラム〉の実践と研修会は、対象年齢や〈あそび〉のジャンルなどの希望にあわせて相談のうえ決めます。

1. 子どもとその家族を対象とした活動

〔こどもの城〕で行っている、子ども・親子を対象とした〈遊びのプログラム〉を集めて実際に行います。参加者の様子も含めて、プログラムの内容や運営方法などを見てもらい、児童館・児童センターなどでの活動の参考に供します。指導者研修会と組み合わせることで、より充実した内

容にすることができます。

「乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム」「幼児と学童を対象とした遊びのプログラム」「展示とワークショップ」— 対象にあわせて、さまざまな〈遊びのプログラム〉があります。

〈遊びのプログラム〉には、運動、造形、音楽、映像・科学などの専門性を生かしたプログラムのほか、人形遊びやレクリエーションゲームなどがあります。また、子育てをサポートする乳幼児親子向けのプログラムなどもあります。

●乳幼児とその家族を対象とした子育て支援●

運動遊び、音楽遊び、人形遊びなどの“ふれあい遊び”のプログラムのほか、乳幼児とその親のための“交流広場”のプログラムがあります。参加者の年齢や人数などに合わせて、具体的な活動内容を決めていきます。

2. 児童館・放課後児童クラブなどの職員・ボランティアを対象とした研修会

〈遊びのプログラム〉の作り方や運営方法のポイントなどを紹介します。〔こどもの城〕の実践経験を生かした研修のほか、「子どもとその家族を対象とした活動」(実践)と組み合わせ、ときにはスタッフとして〈遊びのプログラム〉に参加してもらうなど、実際的な内容の研修会です。

●遊びの実技研修●

運動遊び、音楽遊び、造形遊び、映像・科学遊び、表現遊び、レクリエーションゲーム遊びなどの運営の実際を体験しながら研修します。児童館を拠点とした、ネットワーク作りの研修もあります。

3. 全国児童館おりがみ作品巡回展

平成25年11月に〔こどもの城〕で展示された全国の児童館・放課後児童クラブの子どもたちが作った折り紙作品の巡回展です。

●幼児や学童を対象とした遊び●

運動遊び、音楽遊び、映像・科学遊び、レクリエーションゲームなどがあります。幼児や学童が〈あそび〉をとおしてさまざまなものに出会い、体験をひろげるプログラムです。

●展示とワークショップ●

見て作って楽しい「造形プログラム」作品などの展示をとおして参加意欲を高め、〈あそび〉のワークショップへといざなうプログラムです。作品展のみの実施も可能です。

●0歳からの子育て支援研修●

管理栄養士、看護師による、食育や健康管理の研修会。保育氏による親子の遊びのメニューについての研修もあります。

●児童福祉施設で活動する人のために●

放課後児童クラブや保育所でボランティアを始めようという人と、ボランティアの受け入れを考えている施設の側の両面から、ボランティアのあり方を考えます。放課後児童クラブのスタッフなどを対象とした、子ども理解のための研修会もあります。

折り紙作品をとおして、児童館や放課後児童クラブの交流をはかります。

◆◆◆〈動くこどもの城〉派遣要綱◆◆◆

〈動くこどもの城〉は、全国の児童館・放課後児童クラブの活動が活性化することを願って行っているものです。より多くの人に利用していただくため、以下のような条件を設けさせていただいています。

■派遣の条件■

- ① 事業の主旨を理解した上で、遊びのプログラム、研修会を運営できること。子どもとその家族を対象としたプログラムは、遊びのプログラムと研修会をあわせて実施すること。
- ② 開催団体は、原則として都道府県や市町村、児童館・放課後児童クラブ、あるいは児童の健全育成や子育て両立支援のための事業を行っていること。
- ③ 単独の児童館・放課後児童クラブの催しとしても実施可能。ただし、必ず近隣の関連施設に呼びかけ、より多くの指導者が参加できる研修とすること。

■経費などの負担■

〔こどもの城〕 ○こどもの城から派遣する職員などの旅費、宿泊費、機材ほかの運搬費など

開催団体 ○参加者のための保険
○PRにかかる費用
○会場使用料などの経費ほか

※詳細についてはお問い合わせください。

■応募から実施まで■

実施希望の団体は、下記の項目を記入のうえ、FAXで〈動くこどもの城〉事務局までお送りください(裏表紙をコピーしてお使いください)。

- ・開催団体名
- ・希望プログラムとプログラムの対象、予想人数
- ・派遣希望日時
- ・電話番号・FAX番号・メールアドレス
- ・担当者名

応募いただいたものは、実施時期・開催条件・前年までの派遣状況、地域的なバランスなどを考慮し、調整のうえ回答いたします。調整後に、実施の可否を回答します。実施可能な場合は正式に派遣申請をお願いします。具体的なスケジュール、プログラム内容などの詳細は、両方で協議して準備を進めていきます。

※派遣先は、希望時期ごとにある程度まとめて決定していきます。決定までお待ちする場合があります。あらかじめご了承ください。

2014年4月1日から受け付け中

■お問い合わせ・お申し込み■

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1
こどもの城センター事業運営部内「動くこどもの城」事務局
Tel 03-3797-5668 / Fax 03-3797-5676
E-mail ugoku@kodomonono-shiro.jp
※電話・ファクスなど、おかけ間違いのないようお願いいたします。

1 子どもとその家族を 対象とした活動（プログラム＋指導者向け研修会）

乳幼児とその家族を対象とした子育て支援

運動遊び

お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ/親子のふれあい体操“1・2・3”

乳幼児親子で、一緒に体を動かし、ふれあいを楽しむ運動遊び。子どもの年齢にあわせて、室内外でできる運動や遊びを紹介します。1人でおすわりできる赤ちゃん（6・7か月～1歳）とお母さんを対象とした「お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ」と、1・2歳または2・3歳の幼児と親を対象にした「親子のふれあい体操“1・2・3”」があります。

定員は、20～30組。所要時間は約60分。指導者向け研修会は、90～120分。実技中心なので動きやすい服装で。



お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ

音楽遊び

親子いっしょに うきうき！おんがくあそび！

1人でおすわりできる赤ちゃん（6・7か月～1歳）、1・2歳、2・3歳の幼児と親が対象。親子で手遊びや歌遊びなど。子どもの年齢にあわせて、内容が変わります。

40～50分のプログラム。定員は各20～30組。指導者向け研修会は、90～120分。楽器演奏が苦手な人でも、指導できるように工夫した音楽遊びのプログラムです。

人形遊び

親子で遊ぼう！ パペットランド

1歳6か月～3歳の幼児と親を対象とした「人形を使ったふれあい遊び」、3歳以上の幼児と親を対象とした「人形を使った劇遊び」があります。身近にあるさまざまなものを人形にして

遊ぶ親子ふれあいプログラムです。

45～60分のプログラム。定員は各15～20組。指導者向けの研修会は、約150分。

交流広場

ぽかぽか広場 乳幼児と親のための交流広場

0～3歳の乳幼児と親を対象とした、出入り自由の“ふれあい広場”の実践を紹介します。“広場”のなかで行うショートプログラム——「広場」での子育て学習会、「広場」で遊ぼう、身近なものであそぼう——も紹介します。

約90分のプログラム。“広場”の実践には、研修を受講する人も参加できます。指導者向けの研修会は、約150分。



「広場」での子育て学習会(左) / 「広場」で遊ぼう(中) / 身近なもので遊ぼう(右)

幼児や学童を対象とした遊び

運動遊び

身近な道具でスポーツあそび/「おにごっこ」で楽しい体力づくり

3歳以上を対象とした運動遊び。新聞紙などの身近な道具を使う「身近な道具でスポーツあそび」と、『おにごっこ』で楽しい体力づくり」があります。

60～90分のプログラム。定員は20人以上。人数や場所の広

さにあわせて、プログラムを決めます。指導者向け研修会は、約120分。



身近な道具でスポーツあそび

人形遊び

みんなで遊ぼう！ パペットランド

4歳以上の幼児から小学校低学年を対象に、「人形作り」と「人形を使った劇遊び」の二部構成。紙コップなど身近な素材で人形を作り、その人形を使って“ごっこ遊び”を楽しみます。

さらに、人形を使った参加劇をします。

60～90分のプログラム。指導者向けの研修会は、約120分。

映像・科学遊び

アニメ・ワークショップほか

4・5歳以上を対象に、「視覚玩具のカンタン工作」「ばたばたアニメ」などの“アニメ作り”にチャレンジ。参加年齢にあわせてプログラムを進行します。所要時間・プログラム内容は

要相談。指導者向けの研修会は、90～120分。このほかにも、「写真ワークショップ」「科学あそびにチャレンジ 音のふしぎ」「こどもの城映画劇場」などのプログラムもあります。

レクリエーションゲーム

レクリエーションゲーム大会 ～忍者マスター決定戦ほか～

“ごっこ遊び”の要素を取り入れた、レクリエーションゲーム。ストーリーを設定して、身近な遊びを“修行”などに見立ててプログラムを展開。「忍者マスター決定戦」「魔法使いチャンピオンシップ」「モンスターグランプリ」の3つ。

小学生以上120～150人、所要時間は120～240分。指導

者向け研修会は150～180分。修了者10～15人は運営スタッフとして参加。



レクリエーションゲーム大会～忍者マスター決定戦～

展示とワークショップ

造形遊び

造形ワークショップ展

造形スタジオの造形遊びの作品見本を紹介する、パネル・ボックスを展示。作品や制作風景を見て、作ってみようという子どもたちの意欲をかきたてます。素材の特性を生かした「素材ア・ラ・カルト」、季節行事を題材にした「こども歳時記」のほか、「紙と造形」「竹体験」「音・光体験」など。

写真パネル、プログラム・ボックスの展示のみも可能です。展示期間やワークショップの定員・対象などは要相談。ボックスサイズ：45×45×10cm、写真パネルサイズ：25×45×3cm、プログラムパネルサイズ：B全パネル、パネルの大きさや点数は、展示環境に合わせてご相談します。



造形ワークショップ展～「こども歳時記」(左) ワークショップ(中)「オープンスタジオ」(右)

昔遊び

お父さんの少年時代

昭和30～40年代に、駄菓子屋などの店先にあった“おもちゃ”の展示をきっかけに、こまやめんこなどの「昔遊び」を体

験します。「昔遊び」は、開催団体のスタッフと実施。展示期間などは要相談。指導者向け研修会は、約120分。

ネットワークづくり

児童館を拠点としたネットワークづくり

児童館が、地域の子育て支援拠点として機能するための社会資源のコーディネートの方法と、ネットワーク作りを学ぶ「研修」。対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員20～50人。所要時間約120分。

おもちゃの交換を中心とした「実践『とりかえっこ』を通じたネットワークづくり」。研修を受けた開催団体のスタッフ、地域のボランティアと一緒に運営。小学生以上の子どもボランティアも20人程度必要。開催期間は半日～2日間。

2 児童館・放課後児童クラブなどの職員・ボランティアを対象とした研修会

0歳からの子育て支援研修

講習と実技

子どもの保健～食生活、健康管理について～

乳幼児期から学童期の子どもたちの“健康”をテーマに、管理栄養士、看護師が研修。「食生活について」「応急処置と健康管理について」。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員は20～50人。所要時間は、90～120分。

親子で遊べるあそびのメニュー～家庭をつなぐあそびのヒント～

児童館や保育所、子育て支援センターなどで行う、親子（幼児）対象の催しに役立つ遊びのメニューを紹介する研修会。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員は20～50人。所要時間は、90～120分。

遊びの実技研修

映像・科学遊び

不思議な映像実験室

映画が発明される前から、動いて見える〈映像〉が作られていました。驚き盤などの“視覚がん具”の制作をとおして、〈映像〉が動いて見える仕組みや、作る楽しさやおもしろさを体験するワークショップを紹介します。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員20～50人。所要時間120分。



不思議な映像実験室

音楽遊び

音楽表現活動の実際

乳幼児や児童にとって、五感に響く音楽遊びとは何か、また児童館でできる音楽表現は何かなどを、実践を紹介しながら、体験します。対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員20～100人。所要時間90～120分。



音楽表現活動の実際

造形遊び

造形ワークショップ

造形スタジオの造形遊びを紹介。参加者と体験制作して、それが生まれる考え方や発想を考えます。「素材ア・ラ・カルト」「こども歳時記」「竹体験ワークショップ」「音・光体験ワーク

ショップ」「アートと遊ぼう」など。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員20～50人。所要時間120分～。

児童福祉施設で活動する人のために

養成講座

放課後児童クラブボランティア養成講座

放課後児童クラブでのボランティア活動の可能性、対象児童の発達にかんする基礎知識などを学びます。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員 10～50 人。所要時間 90～120 分。

保育所ボランティア養成講座

保育所でのボランティア活動の可能性、対象児童の発達にかんする基礎知識などを学びます。ボランティアを受け入れる側を対象としたものもあります。講座内容は、参加者などにあわ

せて、相談の上決めます。

対象は、保育所などの職員、ボランティア。定員 10～50 人。所要時間 90～120 分。

グレードアップ講習

放課後児童クラブの職員等を対象とした研修会

子どもの発達や成長について理解を深め、放課後児童クラブの運営に必要な知識や技術を高めます。

「ワークショップ：『遊び』を通して子どもを理解する」

「実例検討会議の実践」「子どもの遊びを支える大人の役割

」の 3 コース。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員 10～50 人。所要時間 90～120 分。

3 全国児童館 おりがみ作品 巡回展

「全国児童館おりがみ作品巡回展」を継続開催しますが、平成 26 年度は作品募集はしません。全国の児童館や放課後児童クラブの子どもたちが『私たちの自然』をテーマに作った折り紙作品を平成 25 年 11 月に〔こどもの城〕に

集めて展示したあとで、全国で巡回展示を行い、児童館や放課後児童クラブの交流をはかっています。

今回は、平成 26 年 11 月以降の巡回展示希望のみを募集します。作品の運搬費用などは、事務局で負担します。

全国児童館おりがみ作品巡回展

■作品内容■

テーマは、『私たちの自然』です。

全国の児童館や放課後児童クラブの子どもたちが、自慢の自然、理想や夢の自然など、素敵な作品がいっぱいです。

■作品サイズ■

○立体作品＝たて 54cm×横 54cm×高さ 43cm以内

○壁面作品＝たて 54cm×横 54cm×高さ 9 cm以内

○写真資料＝ A3 サイズで参加した児童館を紹介

■作品■

立体作品 9 点、壁面作品 11 点と写真。作品内容は〔こどもの城〕ホームページでごらんいただけます。

全ての作品展示、もしくは、一部の作品展示も可。

■巡回期間■

平成 26 年 11 月中旬から平成 27 年 1 月中旬の期間のうち、希望の期間 3 日間から 2 週間のうちご希望の日数で展示（搬入搬出・展示準備などに前後 2～4 日が必要）。

■応募方法■

児童館名／担当者名／住所（郵便番号、電話番号、FAX 番号）／メールアドレス（お持ちの方のみ）／希望作品数（立体、壁面）——を記入して、6 月末までにこどもの城センター事業運営部内〈動くこどもの城〉事務局まで、メールまたは FAX（03-3797-5676）でお申し込み下さい。応募多数の場合は抽選を行います。7 月 15 日に決定します。

■費用■

展示に係る経費は参加館で負担してください。

作品運搬に係る経費は事務局が負担します。



『25 年度テーマ（私たちの自然）
「星のふるさと」』香取市山田児童館（千葉県）

■問い合わせ■

こどもの城センター事業運営部内

〈全国児童館おりがみ作品展〉事務局

TEL 03-3797-5668 FAX 03-3797-5676

E-mail ugoku@kodomon-shiro.jp

※電話・FAX等おかけ間違いのないようお願い致します。

応募用紙

開催団体名

.....

希望プログラム

.....

プログラムおよび研修会の対象と予想される人数

※「全国児童館おりがみ作品展」巡回展に応募する場合は、「児童館等の施設名」「郵便番号・住所」をご記入ください。

.....

派遣希望日時

※「全国児童館おりがみ作品展」巡回展に応募する場合は、展示期間希望日をご記入ください。

.....

電話番号

.....

FAX 番号

.....

メールアドレス

.....

担当者名

.....

その他

.....